



教育センターとして

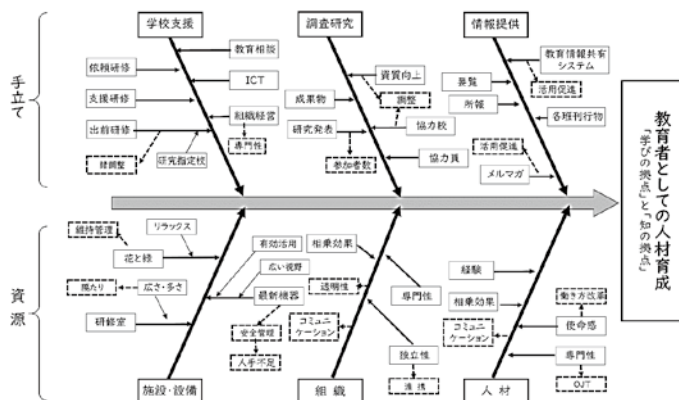
沖縄県立総合教育センター
所 長 宮 城 淳

新しい生活様式の中、本総合教育センターにおいても児童・生徒等の学びを止めないため、様々な取組を実施しているところであります。そのような中、新学習指導要領が求めるこれからの予測困難な時代を自らの力で切り拓く力、まさに「生きる力」として育成することの大切さを感じました。そして、Society5.0時代を生きる子供たちにとっても、ICTを活用しながら社会を生き抜く力を身に付け、時代に取り残されることなく、世界に羽ばたく可能性を広げてほしいと願います。

令和2年度に「沖縄県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡ」が新たにスタートし、2030年の社会とその先の未来を、子供たち自身が創り上げていくことができるように各学校においても取り組んでいるところであります。本総合教育センターの役割は、本県の教育課題の解決への取り組み特に、「確かな学力」の育成において各学校の頑張りに大きく寄与することです。本総合教育センターとしましても、国や県の動向等を踏まえて、具体的解決策に関する開発的・実践的な調査研究のさらなる充実を推進し、時代の変化に適応する教育センターとして取り組み、これからの時代に対応できる「生きる力」の育成を目指しております。そして、本県の教育施策を推進する立場から、関係機関との連携を図り、各種研修会、各種研究会、各学校現場など多くの人と関わり、識見を高め、教育実践の専門機関としての力量をつけ、様々な知見を得るように努め、現場に寄り添う教育センターを目指しております。

また、「学びの拠点」と「知の拠点」としての本総合教育センターの役割を発揮するように、昨年度、本センターの役割を考え、本センターの人材及び設備等を活用して最大の支援を行えるように努めることとしております。さらに、「守・破・離」を念頭に置き、「不易」と「流行」を意識しながら新たな時代に適応していくことが本センターの今後の役割と考えます。

結びに、昨年度のコロナ禍の中、先行きの見えない社会を経験したことを、新たな一步を踏み出す力と変えることができると思います。そういう新しい視点で、社会を生き抜く力を、真の「生きる力」とし、かけがえのない人生にふさわしいカンターを目指して役割を果たしてゆきたい。



* * * * *	も	く	じ	* * *	* * *	* * *	* *
● 巻頭言「教育センターとして」						所長 宮城 淳	- 1
● 調査研究事業について ～統一テーマ「これからの時代に必要となる資質・能力の育成」～					他	-教科研修班-	- 2
● 特別講演会「教育老年学への招待 ～人生を豊かに生きる～」				他		-教育経営研-	- 3
● 中学校理科自主講座・中学校技術自主講座				他		-理科研修班-	- 4
● 障害者週間ミニ展示会を終えて				他		-特別支援教育班-	- 5
● MPS 制御装置（自動生産システム）				他		-産業教育班-	- 6
● 高等学校での授業における個人用端末の活用の検証				他		-IT 教育班-	- 7
● 後期・1 年長期研修研究報告会						-教育経営研修班、産業教育班、IT 教育班-	- 8

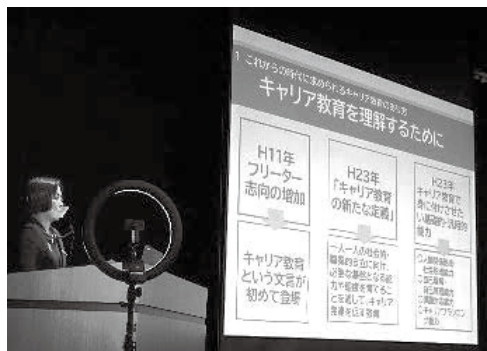
研究発表会

統一テーマ「これからの時代に必要となる資質・能力の育成」

「令和2年度 県立総合教育センター研究発表会」を、令和3年2月6日(土)に開催しました。「プロジェクト研究」では、「沖縄県キャリア教育の基本方針」に基づいて取り組んだキャリア教育の理論と実践発表及び「これからのキャリア教育について」をテーマにトークセッションを行いました。また、各班の専門性を生かし学校の教育力向上に資する研究に取り組んだ「個人・共同研究」10編の発表を行いました。

今年度はキャリア教育に係るリーフレットと実践事例集を作成し、本総合教育センターホームページからダウンロードできるようにしています。報告書やリーフレット・実践事例集が、各学校の教育活動をさらに効果的なものにするツールとして活用が図られ、目の前の児童生徒が迎えるこれからの時代に必要な資質・能力育成の一助となれば幸いです。ぜひご活用ください。

※研究内容の詳細は、
本総合教育センターWeb ページ
<http://www.edu-c.open.ed.jp/>
または、各学校等へ配布している
『調査研究報告書』をご覧ください。



研究発表の様子

教育講演会

本県及び各学校における教育課題解決へ向けて、多くの示唆がいただける貴重な機会となるよう、令和3年度は4回の教育講演会を予定しております。多くの御参加をお待ちしています。

回	期日	演 題	講 師
1	5/25 (火)	(仮) キャリア教育	学校法人興南学園 理事長 我喜屋 優
2	9/28 (火)	(仮) 支援を要する児童生徒への対応	こども若者未来相談プラザ Sorae 総括責任者 松本 大進
3	12/14 (火)	(仮) 特別支援教育	FR 教育臨床研究所 所長 花輪 敏男
4	2/5 (土)	(仮) キャリア教育	筑波大学人間系 教授 藤田 晃之

移動教育センター講座

宮古地区と八重山地区において、小中学校の教職員を対象に、理論研修や実践事例紹介、ワークショップ等、各地区9講座を行う予定です。

多くの御参加をお待ちしています。

*期間：令和3年5月～9月

*場所：各教育事務所

講座内容

- | | |
|-----------------------|------------------|
| ① 小・中学校道徳 | ② ノートづくり・家庭学習の定着 |
| ③ 小・中小規模・複式学級担任講座 | ④ 小学校算数 |
| ⑤ 小・中学校授業づくり | ⑥ 小学校外国語 |
| ⑦ 小・中学校特別活動 | ⑧ 小学校国語 |
| ⑨ 国際理解・開発教育(ESD・SDGs) | |

特別講演会「教育老年学への招待 ～人生を豊かに生きる～」

令和3年1月19日、本総合教育センター多目的研修棟にて、令和2年度第2回特別講演会が行われました。

本講演会は、「明日を担う児童・生徒の教育に携わる教育関係者が、豊富な経験及び実践に基づいた講話を拝聴することで、今後の教育方策等に資する機会とする。」を目的として長期研修員及び所員を対象に実施しており、今回は琉球大学大学院教育学研究科高度教育実践専攻（教職大学院）の下地敏洋教授を講師にお迎えしました。

演題は、「教育老年学への招待 ～人生を豊かに生きる～」と題し、老年学との出会いとその定義・重要性のお話から最新の老化理論、健康寿命（健康長寿）について、下地教授の米国留学経験のお話などを交えて、大変分かりやすく講演をして頂きました。

研修員は、いずれ訪れる自身の老年期にあたっての心構えや心理的課題について、一人一人が想いを巡らせ、真剣な表情で下地教授のお話を聞いていました。

講演後の感想では、「とても興味深い内容でした。研修の枠を超えて、私たち教職員にとっても『生きる』意味と価値を考えさせられました。」「より良い生き方の構築の仕方や幸福度を高めるための考え方など、短い時間でしたが、自分の中にスッと落ちるものが多く、たくさん学べました。」「本日の講演を聞きながら、一昨年亡くなった父のことを思い出していました。まだ母は元気で畑仕事に生きがいを見出しているの、長生き出来そうです。私も笑いのある家庭を大事にして、健康作りを心掛け、60歳を過ぎても目的を持ち、輝けるオーバーを目指します。」とあり、満足度の高い講演会となりました。



令和2年度 適応指導教室通級児童生徒等体験活動交流会

～新たな出会いと発見！ 体験活動を通して、児童生徒の自己肯定感を育む～

12月4日（金）に適応指導教室通級児童生徒等体験活動交流会を行いました。この体験活動交流会は教育相談事業の一つで、県内適応指導教室や各小中学校の教育相談室等に通級する児童生徒を対象とし、毎年開催しております。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各活動の応募数を減らして実施しました。応募者数は99名、当日は78名の児童生徒が参加しました。「書道」「三線」「ミニシーサー作り」「Tシャツ&缶バッジづくり」「プログラミング体験」「ゴム鉄砲作り」「不思議実験」など本センター主事の専門性を生かした全16の体験活動があり、児童生徒はそこから1つ選択し、活動を楽しみました。



児童生徒アンケートの感想には「すごく面白くて、よい思い出になった。」「自分の『好き』を共有できたり、『好き』を形にすることができてよかった。」「収穫やいろいろな体験ができて良かった。」と充実した時間を過ごし、ほとんどの児童生徒から「とても楽しかった」「楽しかった」と満足の声を頂きました。また、引率した先生方からは「多種多様のプログラムがあり、どのプログラムも興味・関心がもてる内容でした。子ども達も意欲的に活動できていた。」「普段手を伸ばすことがない体験活動ができ、思いもよぬ発見があり、いい場だなと思います。」「いつも控えめな生徒が（三線の）演奏も前で行うことができ、自信に繋がったと思う。」と感想がありました。

それぞれの活動に一生懸命取り組む児童生徒の様子や閉会式前に緊張の面持ちながらも三線を堂々と演奏する様子、体験活動と同時に施設内の機械類を見学し高校進学が楽しみになったと話す生徒など児童生徒の充実した表情を見ることができました。この体験活動交流会は新しい発見や学びがあり、有意義な時間を過ごすことができたようです。

中学校の先生方の実践力・指導力向上をサポート！

～「中学校理科自主講座・中学校技術自主講座」～

11 月、12 月に中学校理科教員および技術教員対象の自主講座を実施しました。これまで中学校教員を対象とした自主講座は、技術分野や家庭分野のみ行っていましたが、今年度より理科教員まで拡大し実施しました。理科自主講座では、理論や実験などの指導に苦勞を感じている第 1 分野（物理・化学領域）、第 2 分野（生物・地学領域）の各分野の単元について、各主事による専門的な見地からの講座内容を企画しました。

＜先生方の感想＞

- ・「指導のポイント」「分かりやすい実験器具」などの紹介があり教師側も教えやすい（物理）
- ・イメージしづらい熱についての実験ができて、学びが多かった（化学）
- ・学習評価について、校内研や教科部分で情報交換して勉強していきたいです（生物）
- ・のぞき窓のスケールには金星の大きさの変化が見えることにすごく感動しました（地学）

中学校技術自主講座では、次年度から実施される新学習指導要領に合わせ、1 年生や 2 年生で学習した内容を、3 年生の統合的な授業として活用できることを念頭に、3 年間を通した年間計画や、プログラミング教育、アクティビティ図を使用しての授業づくりなどを行いました。

次年度もさらに充実した内容を計画しています。ご応募お待ちしております。



地学分野の様子

令和 2 年度実施内容

小学校理科	4 月 魚の誕生（5 年）：中止	5 月 力のはたらき（3, 6 年）体積と温度（4 年）
	6 月 月や星の動き（4 年）	9 月 電気と磁石（3, 4, 5 年）、水溶液の性質（6 年）
中学校理科	11 月 物理分野：運動とエネルギー	化学分野：化学変化と原子・分子
	12 月 生物分野：遺伝の規則性と遺伝子	地学分野：大地の変化、地球と宇宙
中学校技術	12 月 年間指導計画、プログラミング教育等	

体験学習教室について ～「第 3 回親子星空★教室」～

11 月 28 日（土）に第 3 回親子星空教室を開催し、19 名の親子が参加しました。前日から曇りがちの天気で、星空観察ができるかどうかというところでしたが、直前まで広がっていた雲が一気に晴れ上がり、絶好の星空教室となりました。月のクレーター、赤く光る火星、木星のガリレオ衛星、そして土星の神秘的な輪などを、小型の望遠鏡と天体ドームにある大型望遠鏡を用いて観察することができました。

＜参加者の感想＞

- ・普段「あの星なんだろうね～？」と話してたレベルから 1 歩前進した気がします
- ・曇っていて見れないと思ったが、すべて見られてうれしかった
- ・とてもきれいで感動した。寒さも吹き飛んだ
- ・本の写真でしか見たことがなかった惑星を自分の目で見られて感動した

今年度は新型コロナの影響により、募集定員を減らしたり、「夏休みおもしろ科学教室」や「移動おもしろ科学教室」を中止したりするなど大変な 1 年となりました。その中でも、3 回の「親子星空教室」を無事に開催できたことはとてもうれしく思います。令和 3 年度は、「親子星空教室」を 4 回に増やし、より一層の充実を図った体験学習教室を計画しています。詳しくは各学校や教育センターのホームページを通じて案内します。皆様のご参加をお待ちしています。



小型望遠鏡での観察



大型望遠鏡での観察



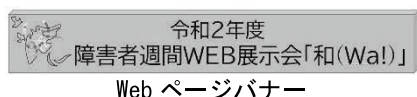
望遠鏡から見た土星

障害者週間ミニ展示会を終えて

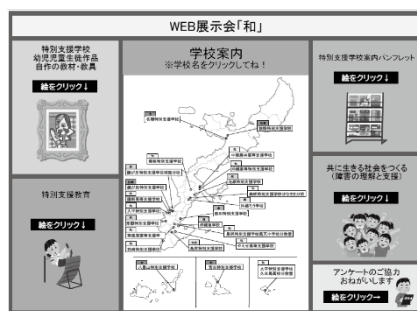
令和2年度の障害者週間ミニ展示会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当初予定していたイオンモールライカムから、本教育センターホームページ上に場所を移し、Web展示会という新たな形での実施となりました。

例年、特別支援学校や沖縄県発達障がい者支援センターがじゅま〜るの協力を得て、特別支援学校紹介のパネル展示、児童生徒の作品及び教職員による自作の教材・教具の展示、障害の理解と支援に関するパネル展示などを行っています。今年度は、Web上での開催ということで、スペースの制約がないため、これまで代表校のみを展示していた児童生徒の作品や教職員による教材・教具を、すべての特別支援学校から提供していただき、掲載することができました。また、障害の理解と支援に関する内容についても、沖縄県教育委員会や障害福祉課が作成している資料を数多く紹介することができ、閲覧者からの感想には、期間限定ではなく常設を望む声も多くいただきました。

次年度以降も、特別支援教育や障害の理解と支援について情報を発信するため、充実した展示会を継続していきたいと思っています。



* 展示会名称「和」は
西崎特別支援学校高等部2学年
生徒の作品を採用しました。



展示会特設ページ

閲覧者の感想より

- ・一人一人の個性があって、作品を見るのが楽しかったです。
- ・教材の中でも子どもを中心とした支援がされていていいと思いました。
- ・どのような支援をしたらいいのかがわかりました。

発信力強化！ 特別支援教育班HP大幅リニューアル ～何が変わった？ホームページ改訂の8つのポイント～

- ① 特別支援教育関係情報への入り口としての機能強化
 - ・トップ画面の11個のボタンから必要な情報をワンクリックで検索
 - ・沖縄県教育委員会が発行した特別支援教育に関する資料・刊行物を掲載
 - ・特別支援学校の学習指導要領、解説、改定のポイントにワンクリックでアクセス
- ② 教育（就学）支援の情報が充実
 - ・教育（就学）支援など県内市町村の教育委員会や学校からニーズの高い情報、役立つ情報を掲載
- ③ 教育相談関係の情報が満載
 - ・教育センターで行っている教育相談や、検査器具借用の手順や手続きに必要な様式などを掲載
 - ・教育相談の担当者が必要な情報、教育相談で役に立つ情報やリンク集を掲載
- ④ 特別支援学級担当者支援の情報が充実
 - ・初めて特別支援教育担当者になった先生方への情報提供
- ⑤ 校内研修を支援する研修資料を提供
 - ・特別支援教育の基礎的な研修が学べる研修動画が随時閲覧OK
- ⑥ 教育センターで実際に見て、触れることができる特別支援教育の教材・教具の紹介
 - ・支援のポイント（合理的配慮）で分けた教材・教具の紹介
 - ・特別支援学校の先生方が障害特性に合わせて作った教材・教具の紹介
- ⑦ 特別支援学校の情報も掲載
 - ・県内の特別支援学校HPへのリンクや県内特別支援学校指定研究もアップ
- ⑧ 特別支援教育の関係機関へ一発リンク
 - ・沖縄県教育委員会をはじめ、文科省、特総研、発達障害関係など関連Webページにリンク

MP S 制御装置 (自動生産システム) ～Mモジュラー Pプロダクション Sシステム～

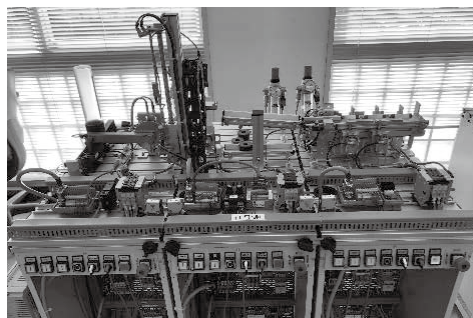
自動生産システムとは、大量生産を行う工場で製品の組み立て工程、作業員の配置を一連化(ライン化)させ、ベルトコンベアなどにより流れてくる機械に部品の取り付けや小加工を行う作業です。

MP S 制御装置は、上記の模擬的な装置で、ワーク(機械)の搬送、検査、測定、保管まで、全体にわたる総合的な自動化を行っています。特徴としては、これまで人間が行ってきた作業を装置に代替させ、省人化・無人化を図ることができます。また、コンピュータ制御技術や産業用ロボットなどを導入して人間の介在を減らすことで、ヒューマンエラーの削減、品質の向上を図るとともにコスト削減を実現することもできます。

MP S 制御装置の取り扱い方は、産業用プログラム支援ツール(ソフトウェア)を使用し、各種センサやモータ等を制御します。始めにセンサやシリンダ等に I P アドレスを割り振り、プログラムは、ラダー回路、SFC 回路でプログラミングを行います。主に使用されている各種入出力装置は右記のとおりです。

県内の工業高校生は、MP S を使用した各種競技大会にも出場しています。若年者ものづくり競技大会では、全国の職業能力開発施設、工業高等学校(共に 20 歳以下)の生徒が出場している中で、金賞を受賞する等、本県生徒の活躍が見られます。

産業教育班では先端技術を活用した夏期短期研修講座、産業教育支援講座、生徒実習、施設見学等学校現場のニーズに応じた講座を開設しています。今後も学校現場に即したニーズに応えられるように支援していきます。



MP S 制御装置

【センサ】

光電式センサ、容量式センサ、色識別センサ

【各種アクチュエータ】

複動シリンダ、エアースライダー、エジェク

ビジネスシミュレーション学習ソフト活用した生徒実習 ～産業教育班 ビジネスシステム研究室～

コンピュータを利用した経営シミュレーションソフト「ビジネスゲーム コンビニ経営」を活用し、「どこのお店に行くか」「どの商品を買いたいか」という消費者の立場から、「どうすればお客にきてもらえるか」「買ってもらえるか」という経営者の立場へ視点を変え、純利益を上げていく実習プログラムです。課題を明確にし、原因と結果に関する数値から、経営戦略を考えていきます。

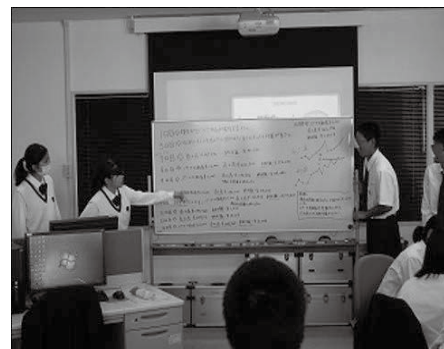
また、日頃学習している商業のマーケティング分野・会計分野の専門的な知識・技能を活かし各グループでの話し合い活動を通して、自分が考えた事をチーム内で共有する事で、一人で考えるより、多くの知識や思考が生まれる事を理解していきます。

実習において、留意するポイントとして、PDCAサイクルを意識した経営戦略を練り上げて取り組むことを促し、思考・判断・表現を促すプレゼンテーションの「場」を設定し、チームだけではなく、クラス全体での対話によって、新しい知識や思考の共通理解を行っていきます。

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して新たな価値を創造する力の育成が求められている今、学びを共創できる実習として大きな効果が期待できます。



課題の分析についての助言



プレゼンテーションによる経営分析の報告

高等学校での授業における個人用端末の活用の検証

国においては、「G I G A スクール構想」が示され、本県の高等学校でも将来的に 1 人 1 台の端末環境を検討しています。それに伴う授業の変化とネットワーク等の課題を整理するため、今年度の検証協力校であるコザ高校、読谷高校、球陽高校、那覇国際高校の 4 校で、生徒個人用端末（スマホ等）を Open 回線に接続し、活用する検証を行いました。その結果、次のような成果が得られました。

- ・生徒用端末を活用することで、教師は今までになかった授業を展開し、生徒は教師が思いもつかなかったような取り組みやアイデアで授業に参加することができた。
- ・生徒は使い慣れた自分の端末で調べ学習、課題の回答や共有を行い、放課後や授業時間以外の様々な場面で活用することができた。
- ・教師は Teams 等を利用して生徒の理解度をその場で確認し、個々の生徒の回答や考えを皆で共有するなど、授業時間の有効活用及び主体的・対話的で深い学びにつなげることができた。
- ・検証中、ネットワーク上でのいじめ等、生徒指導に関わるトラブルの認知件数 0 であった。
- ・生徒 1 人 1 台の個人用端末使用時の県立学校におけるインターネット回線の利用状況を把握し、より活用しやすいよう改善を行うことができた。

BYOD (Bring Your Own Device) を行うには、導入前に BYOD の目的や目標をしっかりと示し共有することや、教職員に対する計画的な研修、管理者の理解と規程づくり等、多くの教職員の協力が必要になるとともに、教育センター等の行政やインターネット接続業者等との連携・協力も必要です。また、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現するための授業の研究や生徒との信頼関係といった基本的なことから、学校の雰囲気等いろいろなことを実感した研究となりました。回線速度、セキュリティに関する課題は未だありますが、生徒が自分自身の端末を使用し、楽しく授業に取り組んでいる姿がとても印象的で、今後の方向性を示す収穫の多い研究となりました。

「教育庁義務教育課 Open メールアカウント」を 全小中学校教職員にも配布！

「教育庁義務教育課 Open メールアカウント」【Open : Okinawa Prefectural Education Network (沖縄県教育情報ネットワーク)】が、教育庁義務教育課と県立総合教育センターの協働作業で、11 月初旬に公立全小中学校教職員約 1 万人に配布されました（臨時的任用職員分 20 アカウントも同時配布）。

今年度当初コロナ禍による学校休校が続く、各学校がその対応に苦慮しました。義務教育課からは、「子供とつながる」「子供の学びを止めない」ため、各学校の工夫を凝らした取り組みが推奨されていましたが、なかなか最善策を見いだすことができないまま、with コロナの新しい生活様式を踏まえた学校活動が進んでいます。その一方、県立学校では以前から全教職員が「Open メールアカウント」を利用しており、今回新たに約 4 万人分の生徒用アカウントを発行しました。その対応で、各先生方が生徒に教材を提供することや双方向で授業を進めることが可能となり、小中学校より一歩踏み込んだオンラインの有効活用を行うことができるようになっていきます。この度配布された Open アカウントは、メールを含めた Microsoft 社の Web 版 Office アプリ等が利用できるだけでなく、Google 社の Google Workspace for Education (G メールは除く) のクラウドサービスも無料で利用できるものです。この対応が、今年度のような感染症対策や次年度からスタートする児童生徒 1 人 1 台端末による令和時代のスタンダードとなる新しい学びの推進、遠隔教育、校務の情報化と効率化へとつながることを願います。詳しくは、県立総合教育センターのトップページにあるポータルサイト「市町村立学校支援サイト (<http://www.gimu.open.ed.jp/>)」をご覧ください。なお、各種変更等やパスワード確認申請書は上記ポータルサイト内の「様式 1-1」「様式 2」(<http://www.gimu.open.ed.jp/open-mail.html>)にて市町村教育委員会担当者へ依頼してください（右図参照）。

- 「アカウントが届いてない」ための作成依頼
 - 「表示名変更」依頼
 - 「削除」依頼
 - 「パスワード確認」申請
- ↓
- 「様式 1-1 又は 2」を
市町村教育委員会へ
- その他要望
- ↓
- 市町村教育委員会
→義務教育課へ
※パスワードの変更はできません。

令和2年度 後期・1年長期研修研究報告会

令和2年度後期・離島・1年長期研修研究報告会が3月9日(火)～12日(金)の日程で、本センターで開催されました。後期長期研修員26名、1年長期研修員26名の計52名が各自のテーマに基づき、教育課題解決に向けた意欲的で熱意の伝わる報告を行いました。会場には教育委員会、関係学校長、教諭の方々の参加やライブ配信による多くの視聴がありました。また、関係各位の激励を受け、研修員一同、6ヶ月または1年の研究成果を十分に報告することができました。



素敵な出会いと学びに感謝！
教育経営研修班 宜野湾市立大謝名小学校 栄養教諭 安慶名恭子



研究方法を模索する中で、時に壁にぶつかることもありましたが、その度に温かい言葉をかけていただき、背中を押して下さった担当主事をはじめ、所属校の先生方や給食センターの皆様の理解と協力の元、研究を進めることができました。仲吉総括からの「丑年は、新しいことを始めるのにふさわしい年。辛い時期はあるが、それは進化するための途中経過なのだから、諦めず取り組み続けることが大切」というお言葉は、最後まで頑張りぬくための心強いメッセージとなりました。これからは、この研修で得た経験を生かして、未来ある子供たちのために日々精進していきたいと思えます。

「実り多き一年」
産業教育班 県立真和志高等学校 教諭 宮城恵理奈



昨年の4月1日は、日常生活が一変したことを覚えています。その日から早一年が経過した今、無事に研究報告会も終え、自身の成長も感じられる程に実りが多かった1年だと感じています。教科から初めてのセンター研修生として挑む緊張と、コロナ禍での研修には不安もありましたが周囲の先生方と協力し、どのような状況下でも「成せば成る」ことを実感できました。この経験と出逢いは、確実に今後の教員人生の糧になり、また、得た教師力は必ずや生徒たちへ還元します。最後に、ご指導いただきました産業教育班の班長、主任、主事の先生方、所属校の先生方に感謝申し上げます。

スキルUPの一年間・・・
IT教育班 県立南風原高等学校 教諭 宜壽次政人



他校種の先生方と共に学ぶ中で、笑いあり、涙あり、再び笑いあり、真剣に自分自身や学校の課題について見つめ直す良い機会になりました。その中で、教師としてのICTを活用した実践的指導力を磨くとともに、新たな知見を数多く得ることができました。また、いつも笑顔で接して下さった班長、主任、主事の皆様のもとで研修に励むことができ、心より感謝しております。これから私たちは研修で得た成果を活かし、引き続き学び続ける教師として資質向上に努め、児童・生徒、学校へ還元できるよう教育活動に取り組んでいきたいと思えます。

学校現場に寄り添う教育センター
学び続ける教員を支援する教育センター